

もとり、大日寺へ御経奉納申一夜、是五里也、それより

松坂へ一夜、是八五里也、それより又穴の津へ付一夜、是八五里也、

それより関の地蔵へ付二夜、是八五里也、それより伊賀之

国に入、上すけへ付一夜、是八三里也、それより雨か瀧へ

付一夜、御経奉納申候、是八九里也、それより大和之国三入

乗良へ二日逗留、春日へ御経奉納申、見物申候也、是八

十里也、それより乘良坂へ付一夜、是八三里也、それより

又都へ付、廿逗留申候、是八九里也、それより船二乗、大坂二

くたり三十日逗留申候、是八十三里也、それより手

分し四国へ四人、中国二人、淡路之国三入、御経奉納申

一夜、海路八七里也、それよりくかの分ハ大坂より西ノ宮

と申在所一夜、是八三里也、それより須磨之捕通、あつ

もりさまの腰懸の松お見物し、それより一之谷・三草の

森・す、め野松原・ひよ鳥越、又ハあつもりさまの

御はかに参、それより播磨之国三入、明石の捕二付、人丸之

御はかに参、やかて山口と申在所へ付一夜、是八十一里也、

それより野口と申在所へ付一夜、是八八里也、それよりひめ

路へ付一夜、是八六里也、其時卯月廿三日の事成り、八ツ

時分之比、つふてよりふとき大雪、なか／＼ふうひ之

事ハ不及申候、是八六里也、それより形鳥と申在所へ付

一夜、是八七里也、それよりさやの木の越し備前之

国三入、三ツ石と申在所へ付一夜、是八六歩也、それより

形かミと申在所へ付一夜、是八四里也、それより岡山三

三十八

付一夜、是八六里也、それより吉備津大明神へ御経奉

納申一夜、是三里也、それより備中之国三入、吉備津

宮へ御経奉納申一夜、是八二里也、それより河辺と

申在所へ付一夜、是八四里也、それより備後之国三入、いは

らと申在所へ付一夜、是八六里也、それより宮内二付一夜、

是八七里也、それよりやかて吉備津大明神へ御経奉納

申、五月五日節供申、祝之事ハ不及申候、それより

安芸之国三入、三ツ木と申在所へ付一夜、是八三

里也、それより高原之宿へ付一夜、是八八里也、それより

四日市へ付一夜、是八六里也、それより芸州之屋形御座

処ヲ見物申、是八広島と申也、是八五里也、それよりかひ田

之宿へ付一夜、是八七里也、それより廿日市へ付、西

倉寺と申御坊へ付、是八六里也、五月十二日之事成、

然処三与州之快堅上人又ハ日州之快栄上人

彼兩人より六ヶ敷儀被懸仰、十一日逗留

留申候へ共、相方の勝負無之候之処、其

郡其町肝煎御披露申御あつかひ

の処三、若輩理運を聞付ふねに乗、

廿二日の卯たつの時以はしり候、其より前代

未もんの面目おとり、各々へ御礼申罷下也、それより宮島

に御経奉納申一見申也、是八海上二里也、それより

四里船に乗、尾形之町へ一夜留まり候、それより

三十八

四里也、それより今市四里半也、それより野上五里也、彼宿にて五月雨暮

拾七日逗留申候、それより天神の宮

一夜留まり候、是ハ六里也、それよりすへの

宿へ一夜、是ハ五里なり、それより長門ノ国

入、山中の宿お通り船木の宿へ付一夜、

是ハ八里也、それよりうずひかたとて、

しほ時ヲさらひ候悪所にて、あんなひ

しらすに渡にて、一命をはたす計

のなんぎ仕候、彼在所通り、神宮の宿

付一夜、是ハ七里也、それより六月十五日

関の戸お渡し、豊前国ニ入、小倉に付一夜、是ハ

四里也、それより高良籠二一夜、是ハ

六里也、それより筑前之国ニ入、秋月の

内大熊二付、是ハ六里也、それより雨ふり

にて、わつか一里の路次ヲかけ、千斗原と申

村二付一夜、それより八町坂とて、九州ニかく

れなき悪所を越し、あまきの宿ニ

付一夜留まり候、是ハ六里也、それより又

筑後国ニはひ塚の宿ニ一夜留まり候

是ハ九里也、それより肥後国ニ入、大津

之宿ニ一夜、是ハ五里也、それより山鹿之町

一夜、是ハ五里也、それより隈本へ付一夜留

まり候、是ハ七里也、それよりうとへ

老夜留まり候、是ハ四里也、それより八城

関へ付一夜、是ハ六里也、それより日なこ

付一夜、是ハ四里也、それより佐敷へ付老

一夜、是ハ五里也、それより菱薊羽月之

在所ニ付、是ハ八里也、然者三歳ニなる七月

廿九日ニ成就申也、右意趣者先君御苦

提、前之又一郎様御法名ニ唯如参大禪

定門御タメナリ、

文禄五年丙申七月廿九日成就敬白、日限

堀之内氏

堀内日限坊

堀之内氏

堀内日限坊

于時明和五年丙申七月廿九日

良限坊

堀之内良限坊文次(花押)

堀内良限坊

文禄五年丙申七月廿九日成就敬白

良限坊(花押)

日限坊(花押)

花押

〔異筆・A本のみ〕

「此一冊、御先祖日限坊廻

国日記之真蹟ニ而、今度

新納駿河殿江入御覽候処、

希世之家珍与思召、如是

袂襟被為加御返候条、到永

年猶格護方可被入念候、

仍如件、

伊地知季通（花押）

（八五七）
安政四年己十二月

堀之内助之進殿

〔異筆・A本のみ〕

〔久〕年亥

三月吉日

〔次〕

【補註】

1 菱苧山野 鹿兒島県伊佐市

2 峨目 峨眼 〓 銭

3 湯浦 熊本県葦北郡芦北町

4 佐敷 熊本県葦北郡芦北町

5 日乗久 日奈久（熊本県八代市）

6 八代の関 熊本県八代市

7 尾河 小川（熊本県宇城市小川町）

8 湯出迟迦院 熊本県八代市泉町柿迫にある天台宗の寺。金海山大恩教

寺と号する。本寺の縁起によれば、ある時、狝善（葉蘭童子）が高い

峰に登って見ると丑寅の方の山に怪しい雲が盛んであった。狝善は奇

異に思つて尋ねて登り庵を結んで住居した。延暦十八年（七九九）四

月八日に大地が震動して、閻浮檀金の迟迦の尊像が紫雲に乗じて湧出

した。狝善はこれを草庵に安置し湧出迟迦院と号したという（『肥後

国誌』・『太宰管内志』下巻等）。「湯出」とはこの「湧出」を書き間違

えたものであろうか。

9 宇登 宇土（熊本県宇土市）

10 河尻 川尻（熊本県熊本市南区）

11 隈本 熊本（熊本県熊本市）

12 旅人法度 前後の文脈から、旅人を宿泊させてはならないという禁制

の意と推測される。熊本だけに発令された局地的な法度か、あるいは

全国的なものか確認が取れず詳細は不明。

13 人もけんとましませば 顔つきや物言いなどに刺々しさのある事。お

ごり高ぶること。またその様。高慢。

14 藤崎八幡宮 熊本県熊本市中央区井川淵町

15 山か 山鹿（熊本県山鹿市）

16 はひ塚 羽犬塚（福岡県筑後市）

17 高良山 高良大社（福岡県久留米市御井町）

18 久留女 福岡県久留米市

19 千栗久山 千栗八幡宮（佐賀県三養基郡みやき町大字白壁字千栗）

20 たんしやく花 「たんじやく（短冊）と花」の意か。

21 岩屋 福岡県太宰府市四王寺山に岩屋城があった。

22 湯本 福岡県筑紫野市の二日市温泉に「湯町」があるが、近隣で「湯

本」なる地名は見られない。あるいはこれは地名ではなく、普通名詞
〔温泉のわき出るおおもと。温泉がわき出る土地。温泉場〕、『日本
国語大辞典第二版第十三巻』四四八頁、小学館、二〇〇二年〕として
の使用かもしれない。

23 宰府天満宮 太宰府天満宮（福岡県太宰府市宰府）

24 羽形のごとく 博多（福岡県福岡市博多区）の方へ、博多に向かつて。

「ごとく」は「如く」で、「の方へ、」に向かつて」の意（斎木一

馬「国語資料としての古記録の研究―近世初期記録語の例解―」、福
島金治編『戦国大名論集16・島津氏の研究』吉川弘文館、一九八三年、
初出は一九六八年）。

25 あかま 赤間（福岡県宗像市）

26 あし屋 芦屋（福岡県遠賀郡芦屋町）

27 とはた 戸畑（福岡県北九州市戸畑区）

28 小倉 福岡県北九州市小倉北区

29 菊ノ郡曾祢 企救郡曾根（福岡県北九州市小倉南区）

30 あおやき 曾根から中津に至る行程で、曾根から一日、中津から七歩
の距離というと、福岡県行橋市辺りが考えられるが、現在までのとこ
ろ比定地未考。「青」が付く地名には豊前市「青畑」があるが、詳細
は不明。「青柳」は古賀市に見えるが、ルートが余りにも外れ過ぎて
いる。

31 中津 大分県中津市

32 五百羅漢寺 羅漢寺（大分県中津市本耶馬溪町跡田）

33 関の戸 関門海峡か。

34 あかまか関 赤間が関（山口県下関市の古名）

35 高麗の御替とて、芸州衆数百人付合 文祿元年（一五九二）に朝鮮に

在陣していた毛利輝元が、翌二年に病にかかり、養嗣子の秀元がこ
れに交代した（『新訂寛政重修諸家譜第十』）。日限坊等が赤間が関へ
入ったのは、翌三年三月十一日頃であったが、この頃まで交代に伴う
混乱があつたのであろうか。

36 神宮皇宮 神功皇后を祀る忌宮神社（山口県下関市長府宮の内町）を

指すか。

37 まつ屋 松屋（山口県下関市）

38 麻町 厚狭（山口県山陽小野田市）

39 小川 山口県宇部市西万倉小河内か。

40 山口 山口県山口市

41 地ふく 地福（山口県山口市阿東）

42 つ八野 津和野（山口県鹿足郡津和野町）

43 あはら 青原（山口県鹿足郡津和野町）

44 益田 島根県益田市

45 浜田 島根県浜田市

46 すゝ 錫。錫で作った酒を入れる器。錫の德利。錫の物。それに入れ
られた酒。また酒（『日本国語大辞典第二版第七巻』九二九頁、小学
館、二〇〇一年）。『中務大輔家久公御上京日記』に「堺衆すゝをたつ
さへ来り候て、路頭の御堂にて酒宴」「奈良衆あまたすゝ・食籠持来
り酒えん」等の使用例が見える。

47 吉浦 吉浦（島根県大田市温泉津町）

48 湯之津 温泉津（島根県大田市温泉津町）

49 金山 石見银山（島根県大田市）か。

追記（一部表記に誤りがありましたので修正します）
42、43の「山口県鹿足郡津和野町」（誤）→「島根県鹿足郡津和野町」（正）

- 50 大田八幡宮 大田南八幡宮（鳥根県大田市大田町大田諏訪口）か。
- 51 はね 波根（鳥根県大田市波根町）
- 52 大社 出雲大社（杵築大社・鳥根県出雲市大社町杵築東）
- 53 三崎大明神 管見の限りで、隠岐国に三崎大明神は見出せない。本文を読んでいくと、四月四日に大社に着き一日逗留、それより隠岐国三崎大明神へ御経を奉納して、出雲へ帰り、真地に一日逗留、六日にあたかへ着いたとある。果たして、五日に海を渡って隠岐国へ向かい、その日の内に真地へ戻って来ることが可能であろうか。こう考えると実際には、隠岐国に渡っていない可能性も出てくる。あるいは大社からほど近い日御碕神社（鳥根県出雲市大社町日御碕）を指すものであろうか。
- 54 真地 宍道（鳥根県松江市宍道町）
- 55 あたか 出雲郷（鳥根県松江市東出雲町）か。近隣には阿太加夜神社がある。
- 56 よなこ 米子（鳥根県米子市）
- 57 大山 鳥根県西伯郡大山町
- 58 角盤山大山 角盤山大山寺（鳥根県西伯郡大山町大山）
- 59 あか崎 赤崎（鳥根県東伯郡琴浦町）
- 60 立石 鳥根県東伯郡琴浦町八橋（立石公民館あり）
- 61 大塚 逢束（鳥根県東伯郡琴浦町）
- 62 はし津 橋津（鳥根県東伯郡湯梨浜町）
- 63 あお屋 青谷（鳥根県鳥取市青谷町）
- 64 鹿野 鳥取県鳥取市鹿野町
- 65 鳥取 鳥取県鳥取市
- 66 中霧之法印助成坊 鳥取城主宮部継潤（？）一五九九、善祥坊、中務卿法印）か。
- 67 八幡宮 鳥取市馬場の倉田八幡宮か。
- 68 平市 鳥取県八頭郡八頭町の「私都」か。
- 69 八かさ町 若桜町（鳥取県八頭郡若桜町若桜）
- 70 狗山 「狗」は「豹」の誤りか。鳥取県八頭郡若桜町つく米に氷ノ山がある。
- 71 山賤 獵師・きこりなど山中に生活する、身分が低く、情趣や条理を解さないとされた人。また、ひろく身分の卑しい者をいった（『日本国語大辞典第二版第十三巻』二〇三頁、小学館、二〇〇二年）。
- 72 なら尾 奈良尾（兵庫県養父市）
- 73 中瀬 兵庫県養父市
- 74 やきの町 八木（兵庫県養父市八鹿町）
- 75 めり 米里（兵庫県養父市八鹿町）
- 76 出石 兵庫県豊岡市出石町
- 77 ふちのもり 兵庫県豊岡市但東町口藤・中藤近くか。
- 78 成相寺 京都府宮津市成相寺
- 79 きれと 切戸町（京都府宮津市大手川にかかる切戸橋西詰の地域）
- 80 御文殊 切戸文殊（京都府宮津市天橋立文殊小字切戸にある天橋山智恩寺）
- 81 九瀬戸 九世戸（京都府宮津市）。天橋立の対岸周辺をいう。救世戸。九世の渡・奇戸・久志渡・切戸等と書く。
- 82 宮津 京都府宮津市
- 83 湯良の 由良（京都府宮津市）か。

- 84 田鍋 田辺（京都府舞鶴市北田辺・南田辺）
- 85 松の尾 松尾寺（京都府舞鶴市松尾）
- 86 かんはし 上林（京都府綾部市八津合町）か。
- 87 野々村 京都府南丹市美山町大野か。
- 88 ほら 洞（京都府南丹市美山町豊郷に洞峠・洞公民館あり）
- 89 上坂 京都市右京区京北小塩町上坂
- 90 戸羽 鳥羽（京都府京都市伏見区）
- 91 天王寺 大阪府大阪市天王寺区。四天王寺の略称。
- 92 高野山 和歌山県伊都郡高野町
- 93 松之尾 松尾寺（大阪府和泉市松尾寺町）
- 94 太子 叡福寺太子廟（大阪府南河内郡太子町太子）
- 95 北国 北陸道を指す。
- 96 大津 滋賀県大津市
- 97 かひ津浜 滋賀県高島市マキノ町海津
- 98 森山 滋賀県守山市
- 99 御多賀大明神 多賀大社（滋賀県大上郡多賀町多賀）
- 100 尾田殿御能あそはし候ヲ 現在までのところ、このような事実を確認出来ない。江戸時代前期の『慈性日記』によれば、正月十七日に牛玉修法結願の「祝能」、六月に「中の午日神事能」がそれぞれ毎年奉納されていたという（『お多賀さまへは月まいり』一〇七頁、彦根城博物館、一九九四年）。後者の例が関連するか。
- 101 永浜 滋賀県長浜市
- 102 木之本 滋賀県長浜市
- 103 中河原 滋賀県長浜市余呉町中河内か。
- 104 今城 今庄（福井県南条郡南越前町）
- 105 水落 福井県鯖江市水落町
- 106 北の庄 福井市の旧称
- 107 かな津 金津（福井県あわら市）
- 108 戸はた 福井県福井市小幡町か。
- 109 那谷寺 石川県小松市那谷町
- 110 大昌寺 大聖寺（石川県加賀市）
- 111 小松 石川県小松市
- 112 まつ戸 松任（石川県白山市）
- 113 大山 石川県金沢市尾山町か。
- 114 竹ノ橋 竹橋（石川県河北郡津幡町）
- 115 久利賀良か峠 俱利伽羅峠（石川県河北郡津幡町と富山県小矢部市の境にある峠）
- 116 いする木 石動（富山県小矢部市石動町）
- 117 森山 守山町（富山県高岡市）
- 118 外やま 富山（富山県富山市）
- 119 なめり河 滑川（富山県滑川市）
- 120 三日市 富山県黒部市
- 121 黒辺四十八ヶ所の悪処 黒部川宇奈月町愛本から下流に形成された扇状地を流れる黒部川の分流の総称を「黒部四十八箇瀬」といった。北陸街道の難所として知られた（『日本国語大辞典第二版第四巻』一三九頁、小学館、二〇〇一年）。「四十八ヶ所の悪処」というのは、この「四十八箇瀬」のことを指したものであろう。
- 122 泊の宿 富山県下新川郡朝日町泊

- 123 さかひの宿 富山県下新川郡朝日町境
- 124 黒川 新潟県胎内市黒川か。
- 125 坊之宿 長野県北安曇郡小谷村から新潟県糸魚川市へと向かう松本街道沿いの新潟県よりの県境に、「山之坊」(糸魚川市)があるが、ここを指すものであろうか。
- 126 親知らず子知らず 親不知子不知(新潟県糸魚川市)
- 127 あふミ 青海(新潟県糸魚川市)
- 128 のう 能生(新潟県糸魚川市)
- 129 谷戸 比定地未考。管見の限り、能生から上越市街地へと向かう途中に谷戸は見られない。「谷浜」という海水浴場があるのみである。何等かの関係があるか。
- 130 府中 新潟県上越市
- 131 春日 新潟県上越市春日野、春日山か。
- 132 大場 新潟県上越市
- 132 国分寺 新潟県上越市五智国分寺
- 134 佐土島 佐渡島(新潟県佐渡市)
- 135 上下 新潟県上越市柿崎区上下浜
- 136 柏崎 新潟県柏崎市
- 137 小松 新潟県阿賀市小松、新発田市上小松・下小松等があるが、柏崎から三里という条件には当てはまらない。あるいは柏崎市西山町尾町のことをいったか。
- 138 宮本 新潟県長岡市宮本町か。
- 139 蔵王寮 新潟県長岡市東蔵王・西蔵王・蔵王町、あるいは胎内市蔵王か。

- 140 猿沢 新潟県村上市
- 141 大はし 山形県南陽市に大橋があるが、詳細不明。
- 142 かも 山形県鶴岡市加茂、新潟県加茂市か。いずれか不明。
- 143 林松 新潟県五泉市村松、胎内市村松浜等があるが、不明。
- 144 龍石寺 立石寺（立石寺）(山形県山形市山寺)か。古名は「りうしやくじ」と言った。
- 145 六十里 新潟県魚沼市と福島県南会津郡只見町との間に「六十里越」があるが、本文に出羽国から奥州へ向かう間にあるとあるので、「六十里越街道」(山形県鶴岡市・西川町・山形市)の事であろう。
- 146 野沢 谷沢(新潟県東蒲原郡阿賀町)か。
- 147 焼山 新潟県東蒲原郡阿賀町。標高三七八・〇m。
- 148 やけ山 八木山(新潟県東蒲原郡阿賀町)か。
- 149 矢沢 野沢(福島県耶麻郡西会津町)か。
- 150 柳津虚空蔵 福島県河沼郡柳津町円蔵寺
- 151 相津黒河 福島県会津若松市神指町大字黒川
- 152 せなりあふり 背あぶり高原(福島県会津若松市)
- 153 ふくら 福良(福島県郡山市)
- 154 なかのま 長沼(福島県須賀川市)か。
- 155 白河 福島県白河市
- 156 松島 宮城県宮城郡松島町
- 157 平和泉 岩手県西磐井郡平泉町
- 158 一の屏 岩手県一戸郡一戸町
- 159 二の屏 岩手県二戸市
- 160 高館 岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所

- 161 乗須の内あしの 芦野 (栃木県那須郡那須町)
- 162 日光山 栃木県日光市
- 163 二ノ宮 二宮赤城神社 (群馬県前橋市二之宮町)
- 164 黒羽ね 栃木県大田原市黒羽向・黒羽田か。
- 165 からすやま 栃木県那須烏山市
- 166 千本 栃木県芳賀郡茂木町
- 167 堤 茨城県那珂市
- 168 江戸さき 江戸崎 (茨城県稲敷市)。但し、那珂市堤から稲敷市江戸崎まで南下し、再び水戸市の天徳寺に戻るとなると、廻国ルートが不自然である。あるいは、那珂市「下江戸」が関連するか。
- 169 天徳寺 茨城県水戸市宮町か。
- 170 浜すり 比定地未考。茨城県行方市に「浜」、鹿嶋市に「浜津賀」があるが、関連があるか。
- 171 鹿島大明神 鹿島神宮 (茨城県鹿嶋市宮中)
- 172 神取大明神 香取神宮 (千葉県香取市香取)
- 173 坂東太郎 利根川
- 174 八日市場 千葉県匝瑳市
- 175 さくら 千葉県佐倉市
- 176 清住 清澄寺 (千葉県鴨川市清澄)
- 177 八幡 千葉県千葉市緑区八幡宿か。
- 178 あなさき 千葉県市原市姉崎
- 179 ふん渡 古戸 (千葉県富津市富津付近)
- 180 船橋 千葉県船橋市
- 181 投はし 土橋 (東京都港区) か。

- 182 中道南まへ下野口 「中道」は鎌倉街道中道のことと思われる。鎌倉から東京、埼玉県東部、茨城県古河、栃木県小山・宇都宮へと通じる。「下野口」とは中道の下野国の入口ということで、栃木県小山市あたりを指したか。「南まへ」については未考。
- 183 熊かへ町 埼玉県熊谷市
- 184 鹿の川 神奈川 (神奈川県横浜市)
- 185 兼沢 金沢 (神奈川県横浜金沢区)
- 186 鎌倉八幡宮 鶴岡八幡宮 (神奈川県鎌倉市雪ノ下)
- 187 鶴か岡 鶴岡八幡宮
- 188 ゆひの浜 由比ヶ浜 (神奈川県鎌倉市南部の相模湾に面した海岸)
- 189 はせの観音 長谷観音 (神奈川県鎌倉市長谷・長谷寺)
- 190 大仏殿 神奈川県鎌倉市長谷にある高徳院の鎌倉大仏。
- 191 八口 A本では「口」の字を書いた後に、「○」のような墨の書き入れがある。見せ消ちの可能性もあるが、B本・C本でははつきりと「口」の字が見える。鎌倉では、朝比奈切通し・名越切通し・巨福呂坂切通し・亀ヶ谷坂切通し・化粧坂切通し・大仏坂切通し・極楽寺坂切通し等を総称して「七口」と言ったが、これと何等かの関係があるか。また地図で確認すると、主要地方道三三二号 (藤沢鎌倉線) 沿いには「八反目・八町面・八反田・八ッ畑」等「八」の付く地名が散見されるが、これも何らかの関係があるものであろうか。
- 192 藤沢 神奈川県藤沢市
- 193 大いそ 神奈川県中郡大磯町
- 194 虎か石 神奈川県大磯町延台寺番神堂にある石。重さ一四五kg。曾我十郎祐成が遊女虎御前のもとに通う夜、賊の矢を防いだため、十郎の